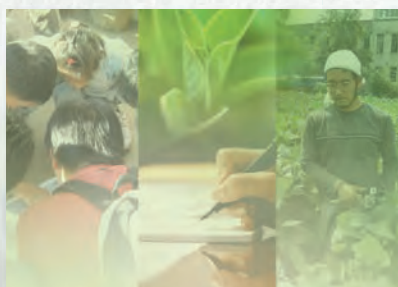


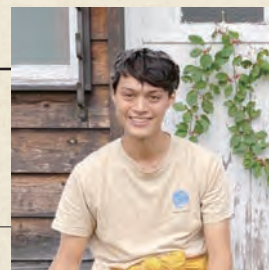
先輩からのメッセージ

Message



Message

森林科学専攻
森林利用学分野
修士課程 2 回生
持 留 匠



私は京都府北部の芦生研究林に足繁く通い、木の幹表面からのメタンガスの放出現象について、幹内部でのメタンの生成と拡散に注目して研究しています。メタンは強力な温室効果ガスです。森林生態系におけるメタン循環を詳しく調べることは、地球温暖化対策や気候変動の将来予測の基礎を固める重要な研究であると考えています。個人的には、自然度の高い芦生の森で、四季を感じながら研究をすすめることができとても幸せです。

森林科学専攻では、地球環境問題を念頭に置いて、基礎から応用まで幅広い研究が行われています。研究室訪問をして先生や学生とじっくり話せば、きっとあなたにあった研究室が見つかるはずです。さらに、木材サンプルの採取から長期の野外調査まで、研究遂行を力強く支援してくださる研究林が身近であるのも当専攻の魅力です。ぜひ森林科学専攻への進学を考えてみてください！

Message

農学専攻
果樹園芸学分野
修士課程 2 回生
平 岩 尚 樹



農学専攻では、世界の食料生産における様々な課題の解決に向けて、遺伝・生理的機構の解明から生産現場への応用まで、幅広く研究を行っています。私の所属する研究室では、果樹の遺伝・生理的機構に関する研究が盛んです。近年では、遺伝子編集による育種の効率化に向けた挑戦的な研究も行なわれています。一方で、果実の官能評価や非破壊評価など、消費者や生産者目線での研究も行なっています。また、農学専攻にはアジア、アフリカ、欧州、南米など様々な国からの留学生がおり、彼らとの交流が盛んなことも魅力の一つだと感じています。私自身は大学院ダブルディグリープログラムでタイに1年間留学し、自分の視野を広げ様々な面で成長することができました。農学専攻は研究室毎にテーマや雰囲気には特色があるので、ぜひ色々な研究室に行ってみてほしいです。そして、皆さんのやってみたい研究が農学専攻で見つければ尚うれしく思います。

Message

応用生命科学専攻
化学生態学分野
修士課程 2 回生
小 田 蓮 乃



応用生命科学専攻では、化学と生物を軸に基礎から応用まで研究を展開し、生命現象の理解に基づいた新たな技術の開発が進められています。

私が所属する化学生態学分野は、生物間相互作用に寄与する化学因子に注目し、様々な生理活性物質を分析・合成し生物試験を通じて生物が持つ多彩な戦略を進化的な視点から解明することを目指しています。中でも私は、酵母細胞壁に含まれるエリシター成分によるイネの生育促進機構解明に取り組んでいます。当研究室が得意とする有機物分析に加え、無機分析・遺伝子発現解析・物理化学的分析を用いて、イネの応答や酵母細胞壁成分の物性を研究しています。

当専攻の魅力の一つは、物理化学・有機化学・生化学・構造生物学など専攻内に多岐に渡る研究分野が存在し、身に付く知識や実際に触れる研究技法の幅が広い点です。きっと自分が「面白い！」と感じる研究が見つかり、分野を跨いだ様々な経験が積めるはずです！

Message

応用生物科学専攻
植物病理学分野
修士課程1回生

白濱 蕉馬



皆さんは植物の病気についてどんなことを知っていますか？私たちの日々の食卓を支えている植物は、常に糸状菌、細菌、ウイルスなどの病原体にさらされています。自然環境や農地において、植物は病原体に抵抗しようとし、病原体も何とかして植物に感染しようとするという、激しい攻防が両者の間で繰り広げられています。

私はこの植物と病原体の攻防についてもっと知りたいと思い、植物病理学分野を選びました。現在私は、気候変動が植物病に与える影響に関心を持ち、分子生物学的手法を用いて「環境」が植物免疫に与える影響の解明に取り組んでいます。日々の研究生活はとても刺激的で、環境と植物免疫の関係にはまだまだ分かっていないことがたくさんあると感じます。

当専攻には他にも動物、植物、微生物など幅広い生物を研究対象とする研究室があります。少しでも興味を持った研究室にはぜひ見学に行ってみてください。きっと良い出会いが待っているはずです！

Message

生物資源経済学専攻
森林経済政策学分野
修士課程1回生

野々山 祥平



生物資源経済学専攻では、食料・環境・農林水産業に関わる社会問題・政策課題について、「人文科学的な」アプローチを駆使して原因究明・解決策の模索を行っています。他専攻とは異なり、経済学、経営学、社会学、歴史学といったツールを用いていることが一番の特徴です。当専攻では非常に幅広い社会問題を研究テーマとして扱っており、インタビューを行って定性的な分析を行う研究室、アンケートやセンサスといったデータから定量的な分析を行う研究室が共存しています。私は、日本林業における「管理不足」という問題の解決策として導入された制度（森林経営管理制度）について検証しています。本制度の参加者を増やし、実効的にするためにはどのようにすればよいか、行動経済学の知見から究明しています。ここで各分野の魅力を紹介するにはあまりにも紙幅が足りないので、ぜひ一度興味をもった研究室に訪問してみてください。首を長くして、皆様をお待ちしております！

Message

地域環境科学専攻
施設機能工学分野
修士課程1回生

村田 香純



地域環境科学専攻では、持続可能な社会を実現するため、環境問題の解決に必要な生産活動や生活のあり方を確立することを目標に、多角的な視点から研究を行っています。具体的には生態系の動態から農村の現地調査、農業生産技術の開発まで多角的な研究を展開しています。私の所属する施設機能工学分野では、生産基盤を支える農業水利施設を主な対象として、施設の防災対策や保安全管理技術の向上に関わる研究、構造物の挙動を予測する解析手法や調査手法の開発も行っています。私は、構造物の設計において重要となる（地下にあるため目に見えない）地層分布を限られた情報から推定する手法の開発を行っています。

ぜひ気になる研究室を訪ねてみてください。面白いテーマに出会い、実りある大学院での研究経験につながるはずです。

Message

食品生物科学専攻
酵素化学分野
修士課程2回生

矢野 晴菜

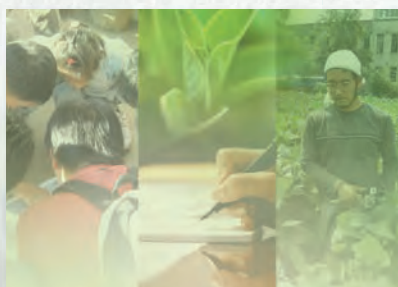


食品や薬が体内でいかに取り込まれて効能を示すのか、身の回りの酵素や微生物がいかに機能するのか、生活に身近でも解明されていない現象が多く存在しています。食品生物科学専攻では、生命現象やヒトと食品との関わりを軸として、生化学、有機化学、物理工学といった多角的なアプローチから研究を行っています。

私が所属する酵素化学分野では、体内で機能する酵素の構造と機能の関係を解明することや、身近に存在する酵素の産業利用に向け機能を向上させることなどを目標に日々研究に取り組んでいます。なかでも、私は神経疾患に関与するDNA修復酵素の体内での働きについて研究することで本疾患の発症メカニズムの解明に取り組んでいます。当専攻ではほかにも、栄養化学の観点から食行動の制御メカニズムを研究する分野や物理工学の観点から新たな食品素材をつくることに取り組む分野など、身近な問題を軸とした幅広いテーマに関わることができます。是非様々な研究室を訪問し、先生方や先輩との交流することで、自分に合った研究室を見つけてください。

修了生のキャリア

Message



Message

森林科学専攻
森林水文学分野
2013年修士課程修了
国立研究開発法人
森林研究・整備機構 森林総合研究所

岩崎 健太



学生の頃は、森で地中に浸み込んだ雨が川になるメカニズムを研究していました。現場に近い研究をしたいと考え、修士修了後に北海道立総合研究機構林業試験場に就職しました。就職後も研究室の先生方にお世話になり、本業の傍ら学生時代の研究を進展させて、5年後に論文博士を頂きました。北海道では、地域のニーズに応じて、様々な研究課題に携わりました。特に、農業の大規模化に伴い農地沿いの防風林が減少している問題に興味をもち、気象観測やモデル化により防風林の機能を評価するとともに、作物学や生態学など他分野の方々の協力も得て研究を広げました。防風林の問題は、十勝で令和2年に起こった風害を機に、地元で大きく報道されました。今は農務・林務の行政が立ち上げた対策チームに加わり、解決に向けて動いています。北海道で9年間勤めた後、他地域の課題への興味から、国の機関に転職しました。現職では、地中の水移動と気象の両方が関係する森林乾燥害の全国規模での解析に取り組み始め、これまでの研究もできる範囲で続けています。仕事の幅が広がり、自分なりの視点をもてることも増えてきて、研究は年々楽しくなっています。

Message

農学専攻
品質評価学分野
2020年修士課程修了
(株)ゼンショーホールディングス
ゼンショー中央技術研究所

藤記 沙耶華



私は、学部時代の授業や大学生活を通じ食に興味を持ち、食品やヒトの味覚について学べる農学専攻 品質評価学分野へ進学しました。その中で、高齢者の味覚感受性について研究を行い、何百人という多くの方にご協力いただき実験(官能評価)する大変さを痛感しました。一方で、将来誰も避けて通れない加齢現象が味覚感受性に与える影響について、生理学的に未解明で、その原因解明に向け研究を進めていくことに面白さを感じていました。

現在は学生時代に身に付けた、味覚に関する知識や実験スキルを活かし、官能評価業務を行っています。原因探求を目指す大学での基礎研究とは異なり、“外食業”の研究開発ではお客様が『おいしい』と感じる商品は何か、『おいしさ』を担保する根拠は何か、を解明することが求められます。実際に商品・食材の食味特性の数値化に取り組んでいますが、同じ官能評価といっても学生時代と比較してゴールが異なり、試行錯誤する日々です。その中で興味深い結果が出たり、任されるテーマが増えたりした時にやりがいを感じています。お客様により良い商品を届けることを目標に、今後も知識・技術を通じて会社に貢献していきます。

Message

応用生命科学専攻
生体機能化学分野
2023年修士課程修了
株式会社村田製作所
技術・事業開発本部

榎塚 太紀



私は、学部時代の授業を通して物理化学から生命現象を解明する面白さに魅力を感じ、生物電気化学に着目する生体機能化学研究室を希望しました。当専攻では生命現象の解明に資する基礎研究を基に、農業生産、食品、製薬、環境問題に役立つ応用的な研究も盛んに行っています。例えば、私の研究対象であったギ酸脱水素酵素という酵素は、常温常圧中性において二酸化炭素の還元を触媒し、世界的に重要な課題である温室効果ガスを削減する技術に活用できると期待されています。

現在は、研究室時代に培った生物電気化学の知見を活かした研究を進めています。近年、環境問題重視の流れも相まって化学業界や電機業界でもバイオテクノロジーを重視する企業が増えており、そうした業界で活躍する修了生も多いです。私は、元々環境問題に興味があったため、バイオテクノロジーを通して脱炭素社会の実現に貢献したいと考えています。

様々な手法を用いた生命現象の解明、バイオテクノロジーを通じた社会問題解決に興味がある方にとって、当専攻は最高の学びの場になると思います。ぜひ、皆さんも充実した研究室生活を送ってください。

Message

応用生物科学専攻
植物病理学分野
2023 年修士課程修了
日産化学株式会社 生物科学研究所
農業研究部

篠田 快望



植物病理学は植物と病原微生物の分子レベルの相互作用から農業現場における病害防除技術までをも含む、奥深く幅広い学問です。私は応用生物科学専攻植物病理学分野で植物の免疫機構について研究しました。モデル植物シロイヌナズナが病原細菌の感染に応答して免疫を誘導するというたった1つの現象に関する膨大な知見を学び、そこにさらに新たな発見を見出すという経験は植物病理の奥深さを垣間見るものでした。

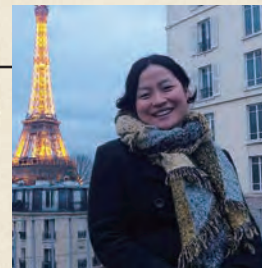
修了後、植物病理の幅広さにも興味があった私は化学メーカーに就職し、現在は農業の開発研究に従事しています。実験室でシロイヌナズナと向き合っていた学生時代とは打って変わって温室や野外圃場で様々な作物や病害を扱い、国内外で販売される農業の試験を行っています。日々新しい学びの連続ですが、大学院で学んだ植物と微生物の知識や扱い方、そして現状の把握や課題設定、仮説立案とその検証といった科学の作法は学生時代から現在を貫く軸となっています。この軸を大切に、既存の農業に囚われない革新的な防除資材を開発して世界の農業に届けることが私の夢です。

今振り返ると、農学研究科では自由に興味を追求でき、それを教員や研究員、学生と心ゆくまで議論できる貴重な日々を過ごしました。知りたい・確かめたい・議論したいことがあるのならば、農学研究科はその想いに応えてくれると思います。

Message

生物資源経済学専攻
農業食料組織経営学分野
2021 年修士課程修了
アジア経済研究所 地域研究センター
東南アジア I 研究グループ

高橋 尚子

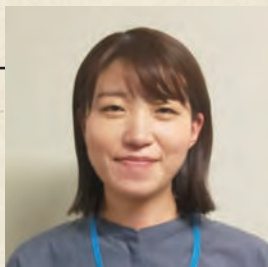


在学中、農業に関わる経営、組織、制度について学び、修士論文では日本の家族農業に注目してその経営や評価方法の研究を行っていました。2019年には交換留学制度の枠組みでフランスへ10か月留学し、海外で研究活動を行う機会を得ました。この留学は、様々な背景の人々と協働する魅力、そして難しさを感じると同時に、研究者として農業経済分野での課題に取り組みたいと考えるきっかけになりました。現在は、社会科学を中心とする研究所で研究員として勤務しています。担当であるタイの経済動向分析のほか、タイの農村研究に取り組んでいます。大学院では分析対象が大きく変わりましたが、大学院で学んだ、フィールドワークを重視し理論枠組みをもって対象を分析する姿勢は、今でも大いに活きていると感じています。タイでは日本より急激に工業化、少子高齢化が進んだ結果、都市農村間での偏った分配が問題となっています。農村の変容や経済格差について研究を進め、現地研究者や実務者と課題解決に向けた議論ができることを目標にしています。生物資源経済専攻は、農学研究科唯一の人文社会科学系の専攻です。ぜひ、ゼミの先生方や仲間との議論を通して、ぜひ新たな学問の切り口を探索してみてください。

Message

地域環境科学専攻
水環境工学分野
2019 年修士課程修了
農林水産省 農村振興局

伊藤 真帆



私は在学中、地域環境科学専攻水環境工学分野で石川県手取川扇状地における水循環について研究に取り組み、水の安定同位体比や地下水流動シミュレーションなどを用いて扇状地における地下水形成過程の推定を行いました。

修了後は、専門を活かして農村地域の農地や水を守る仕事がしたいと思い、農林水産省に入省しました。これまで、ため池の防災減災対策や国営事業所での農業水利施設の整備に携わり、現在は農業農村整備事業全般に関する調整業務を担当しています。国全体に関わる施策の企画立案から現場での工事実施まで幅広い業務を経験することができ、多角的な視点から農業・農村の課題解決に取り組んでいると感じます。今後さらに経験を積み、農業・農村がより良いものとなるよう貢献したいと思っています。

Message

食品生物科学専攻
酵素化学分野
2020 年博士後期課程修了
不二製油グループ本社株式会社
未来創造研究所

馬場 美聡



私は在学中に核酸を基質とする酵素の基礎的な性質を調べたり、機能改変を行ったりと基礎的な研究をしていました。学位取得後は、世の中の多くの人々に貢献できるような仕事をしたい、そして自分の研究バックグラウンドを生かすことができる企業で働きたいという2つの想いを軸にして、食品企業での研究者の道へ進みました。

現在は、近年話題となっている大豆ミートなどの植物性素材をよりおいしくするための基礎的な研究に取り組んでいます。一見すると、企業での現在の研究は在学中の研究テーマとは無関係のように思われますが、在学中に得た酵素をはじめとするタンパク質についての知識や研究を遂行するにあたっての多岐にわたる研究室内外での経験が大いに役立っています。今後、食糧危機などの社会課題が顕在化し、植物性食品の需要が高まると考えられているため、おいしさという観点からの研究は非常に重要です。

「私にしかできない仕事をする」というモットーを元に、自身の研究バックグラウンドを生かした研究を今後も続け、食品という誰もが口にするものを通して社会貢献していきたいと考えています。

入試案内

1. 2025年度入学試験及び日程

【修士課程（一般・社会人特別選抜）】

募集要項配付：2024年6月上旬
願 書 受 理：2024年7月上旬
入 学 試 験：2024年8月中旬～下旬
合 格 者 発 表：2024年8月下旬～9月上旬

【修士課程（第二次・私費外国人留学生特別選抜）】

【博士後期課程（一般・社会人特別選抜・私費外国人留学生特別選抜）】

募集要項配付：2024年11月上旬
願 書 受 理：2024年12月上旬
入 学 試 験：2025年1月下旬
合 格 者 発 表：2025年1月下旬

2. 募集要項

募集要項は内容が確定次第、ホームページに掲載します。受験を希望される場合は、各自でホームページからダウンロードしていただくようお願いします。

3. 入試情報

志望者は事前に志望する専門種目（研究室）の教員（下記のURL）と連絡を取ってください。
なお、過去の入試問題についても各研究室等が対応します。
<http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/japanese/graduate/>

4. 大学院入試関係窓口

京都大学 農学研究科大学院教務掛

住 所：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

電 話：075-753-6014

受付時間：9:00-12:00 / 13:00-17:00（ただし、土曜、日曜、祝日を除く）

(各年度 4月1日付入学)

修士課程入学状況

年 度	一 般 選 抜					特別選抜による 入学者		入 学 者		
	入学定員	出願者	合格者	辞退者	入学者	私費 留学生	国費 留学生	計	男	女
2019	303	385	293	16	277	25	9	311	205	106
2020	303	347	291	15	276	26	7	309	200	109
2021	303	342	282	10	272	26	3	301	178	123
2022	303	367	310	14	296	17	5	318	181	137
2023	303	346	290	7	283	13	5	301	191	110

修士課程入学者出身別構成

年 度	本学農学部	本学他学部	国内他大学	国外他大学	計
2019	224	2	56	29	311
2020	212	4	65	28	309
2021	209	2	63	27	301
2022	214	4	81	19	318
2023	220	3	61	17	301

博士後期課程への進学・編入学状況

年 度	入学定員	本学からの進学者		編 入 学 者				入 学 者		
		日本人 学生	留学生	出願者	入学者	出願者 (留)	入学者 (留)	計	男	女
2019	90	26	5	11	11	11	11	53	38	15
2020	90	24	10	7	6	9	5	45	32	13
2021	90	27	5	14	14	12	11	57	33	19
2022	90	35	11	17	16	9	6	68	42	26
2023	90	25	8	17	17	8	8	58	35	23

進路状況

修士課程修了者の進路状況

年 度	修了者	進 学	就 職	その他	就 職 先			
					研究者	技術者	教 員	その他
2018	331	39	270	22	75	96	0	99
2019	309	49	246	14	65	87	1	93
2020	313	40	252	21	66	89	3	94
2021	304	61	223	20	55	89	0	79
2022	308	45	238	25	54	76	1	107

博士後期課程修了・認定退学者の進路状況

年 度	修了・認定退学者	就 職	その他	就 職 先			
				研究者	技術者	教 員	その他
2018	68	37	31	19	6	8	4
2019	59	41	18	22	4	12	3
2020	61	41	20	27	2	5	7
2021	54	43	11	27	5	8	3
2022	65	37	28	27	2	2	6

2022年度 修士課程修了者の産業別活動状況

業 種	専 攻	農 学	森林科学	応用生命科学	応用生物科学	地域環境科学	生物資源経済学	食品生物科学	合 計
製造業	農・林・漁業						1		1
	鉱業・建設業		3			1			4
	食料品・飲料・たばこ	6		13	7	4		10	40
	繊維工業		2			1			3
	印刷等			1	1				2
	化学工業・石油	3	2	9	5	2		6	27
	鉄鋼業・金属		1						1
	機械・電気	1	6	4	4	3		1	19
	その他	1	2						3
サービス業等	電力・ガス	1		1	1	3			6
	情報通信業・運輸業	2	6	5	9	6	4	2	34
	卸売・小売業	1	3	6	6	2	2		20
	金融・保険業			1	5	2	2		10
	学術研究・専門・技術	4	5	5	7	8	2	6	37
	宿泊・飲食業				1		1		2
	その他		1	1	2		1		5
教育	学校教育		1			1			2
	学習支援業	1							1
公務	国家公務	1		2	3	1	1		8
	地方公務	2			2	3	1		8
	上記以外	1	1		1	2			5
合 計		24	33	48	54	39	15	25	238

2022年度 博士後期課程修了・認定退学者の産業別活動状況

業 種	専 攻	農 学	森林科学	応用生命科学	応用生物科学	地域環境科学	生物資源経済学	食品生物科学	合 計
製造業	農・林・漁業				1				1
	鉱業・建設業								0
	食料品・飲料・たばこ			1	2				3
	繊維工業								0
	印刷等								0
	化学工業・石油			3		1			4
	鉄鋼業・金属								0
	機械・電気			1					1
	その他								0
サービス業等	電力・ガス								0
	情報通信業・運輸業					1			1
	卸売・小売業		1						1
	金融・保険業								0
	学術研究・専門・技術	1		1	2		1		5
	宿泊・飲食業								0
	その他		2						2
教育	学校教育	1	4	3	2	1	1	1	13
	学習支援業								0
公務	国家公務								0
	地方公務								0
	上記以外		1	2	2	1			6
合 計		2	8	11	9	4	2	1	37